

標準物質協議会

会 報

1991・12

第 17 号

Japan Association of Standard Substances

標準物質とは

標準物質とは、測定器の校正、測定方法の評価、あるいは物質の値付けの標準として用いられる素材又は物質で、その一つ又はそれ以上の特性値がこれらの目的に使用されるのに十分な程度で確定されているものを言い、これを使用することによって、物理的、化学的、生物学的又は工学的量の測定又は付与された値が、異った2箇所間で共用することを可能とするものである。

第17号の会報は、別添の日本学術会議へ提出した報告書で代えさせて戴きます。

事務局便り：

◎昭和54年度から57年度にわたり当協議会会長を務められた、元東京工業試験所所長（現化学技術研究所）益子洋一郎氏が9月29日（金）逝去されました。

氏は、ISO/REMCOの国際会議に第1回から第7回（昭和57年）まで日本代表として出席されました。また昭和49年に公示されたJISK 0501化学標準物質通則も、氏が中心となって作られたものであり、標準物質に関し多大の尽力を払われました。心から御冥福をお祈り申し上げます。（協会から御香典をお届けしました。）

◎平成3年7月2日（火）総会を飯田橋会館で開催しました。例年のごとく見学会及び講演会を開催することで承認されました。総会終了後、昼食会をいたしました。

◎平成2年7月1日から環境庁国立公害研究所が環境庁国立環境研究所と改名しました。

◎平成3年10月1日から通商産業省工業技術院公害資源研究所が通商産業省工業技術院資源環境技術総合研究所と改名しました。

◎国立環境研究所で環境標準について国際的にご活躍されておりました岡本研作氏が徳島大学の教授として赴任されました。環境標準物質は今後どうなるのでしょうか。

◎当協会の理事の坂田衛氏が環境庁からの依頼でプロジェクトタイプ技術協力者としてタイ国に赴任されてからもう一年経ちました。早いものです。今後の一層のご活躍を。

◎今年は、計量法が施行されてから100年目になるそうです。現在、通商産業省計量行政室では計量法の改正の作業をしているそうです。（標準物質について期待したいものです。）

◎「標準物質及び値付け」という日本語は何時、どのような理由で使われたか、御存知でしたら事務局までお知らせ下さい。

当協議会の前身である「標準炭化水素協議会」発足のとき（昭和38年5月）、「標準物質打ち合せの会」ということで初会合が開かれています。（会報第7号参照）

◎第15回ISO/REMCOの国際会議が2年ぶり、今年の5月にジュネーブで開催されました。日本からは計量研究所今井秀孝研究企画官が一人代表出席されました。

主な議題は、ISOガイド30「標準物質に関する用語と定義」の改訂案作成、各国及び国際機関の標準物質に関する活動状況の把握並びに作業部会（TG）の見直しとのことです。

ガイド30の改訂案では、RMとCRMの定義に「均質性とトレーサビリティの概念を取り入れて認証値の不確かさの表現を明確化したこと、新たに一次標準（Primary Standard）、二次標準（Secondary Standard）、トレーサビリティ（Traceability）の用語や概念」を取り入れたとのことです。

作業部会では第13会議で設置された3部会（会報第13号及び第15号参照）に加えて認定作業部会TG4（Accreditation）一認定・認証、国際比較などが設置されたそうです。これはヨーロッパを中心として種々の製品に対する品質保証の国際化を図ろうとする一連の動きとも関連するようです。（計量研ニュース№10より）

◎今年の6月に日本学術会議標準研究連絡委員会標準物質小委員会で取り纏めた報告書が学術会議の上部委員会に提出されました。今後の成行きが期待されます。

◎今年の見学場所は、産業医学総合研究所（平成3年12月9日（月））にいたしましたのでご期待ください。参考までに過去見学した所を記載いたします。（会報第8号にもあります）

昭和54年11月	環境庁国立公害研究所（現環境研究所）
昭和55年6月	工業技術院化学技術研究所、工業技術院計量研究所
同年11月	工業技術院公害資源研究所（現資源環境技術総合研究所）
昭和56年7月	工業技術院地質調査所、工業技術院電子技術総合研究所
同年10月	科学技術庁無機材質研究所、工業技術院機械技術研究所
昭和58年1月	財団法人日本分析センター
同年11月	工業技術院微生物工業技術研究所、工業技術院繊維高分子材料研究所
昭和59年11月	日本原子力研究所（東海村）
昭和60年11月	通商産業省通商産業検査所、財団法人電力中央研究所
昭和61年11月	農林水産省食品総合研究所、建設省土木研究所
昭和62年11月	財団法人日本自動車研究所、文部省高エネルギー物理学研究所
昭和63年12月	農林水産省畜産試験場、農林水産省森林総合研究所
平成2年11月	東京都環境科学研究所

◎講演会は過去下記の通り開催しました。

昭和55年9月	標準物質（標準液）の表示値の決定法（原子力研、橋谷博氏、現在鳥取大） 標準液の安定性（横浜国立大、並木博氏） 標準液の使用法とその問題点（東大、田村正平氏）
昭和57年1月	有機微量元素分析標準について（星薬大、今枝一男氏） 臨床検査に用いる標準物質について（虎ノ門病院、桑克彦氏、現在筑波大）
昭和60年1月	機器分析と標準物質—吸光光度測定における標準物質のあり方 （島津製作所、坂田衛氏、現在タイ国駐在） 吸光光度法環境測定器における目盛り校正と問題点（電気化学計器、森正樹氏） 臨床検査における絶対吸光光度の必要性（桑克彦氏）
昭和61年2月	無機微量成分分析の諸問題（名大、水池敦氏） 半導体の表面定量分析と標準物質（オージェ分析）（電子技術総合研、小野雅敏氏）
昭和62年2月	標準微粒子とその信頼性（電子技術総合研、中江茂氏） 標準粒子の発生と機器の校正（東海大、横地明氏） クリーンルームの評価と計測（東工大、藤井修二氏）
平成元年3月	クリーンルーム内の気流の測定について（日立プラント、鈴木道夫氏） ヘパフィルターの効率測定について（金沢大、江見準氏）
平成3年2月	吸光度の精度測定とトレーサビリティについて（計量研、高橋千晴氏） 可視域・紫外域におけるガラス製光学フィルターの供給と検査 （機電検、片桐拓朗氏） 環境分析用標準試料（国立環境研、岡本研作氏、現在徳島大）

◎昭和62年6月12日（水）14時から飯田橋会館で、協議会発足25年記念式典を開催しました。雨宮登三、益子洋一郎両氏を功労者として表彰しました。また通産省から飯塚工業技術院長、三野標準部長、斉藤化学品安全課長、余田計量行政室長、筑波の研究所からは服部計量研究所長、川瀬分析化学部長、通商産業検査所渡辺化学部長、日本規格協会森理事長の方々が参集して下さいました。（会報第7号）

◎この会報がみなさんの手元に届く頃は、忘年会もさぞたけなわになっていることと思います。

◎J I Sの公害関係ハンドブック付録で、協議会関係の修正訂正をしました。なお来年度版は「環境測定」となるそうです。

（C・K）

東京都墨田区東向島4-1-1

（財）化学品検査協会内

標準物質協議会